

2015 年 A カードトップ会

第 20 回 A カードトップ会

日時：2月17日 14:00～20:00

場所：野村コンファレンスプラザ日本橋

内容：

- ① 開会：A カードの今後の方針
- ② 2014 年度年間優秀加盟ホテル表彰式
(年間優秀ホテル表彰) 1 室当たり
1 位 みずさわ北ホテル
2 位 スマイルホテル函館
3 位 スマイルホテル長野
(年間最優秀個人表彰)
1 室当たりの会員獲得数 1 位
みずさわ北ホテル 加藤幸巳氏
同率 1 位
みずさわ北ホテル 伊藤正臣氏
会員獲得総数 1 位
スマイルホテル函館 対馬涼太氏
- ③ 講演「稼働率 97%、宿泊予約 24 カ月連続、平均前年比 124% UP を実現した WEB マーケティング営業ノウハウ」(講師：(株)コレリアンドアトラクト 代表取締役 松本慶大氏)
- ④ 講演「人を豊かにするホテル経営」(講師：ホテルサン人吉 代表取締役社長 村田優子氏)
- ⑤ アンケート集計結果の発表：A カード会員向けアンケート(ビジネスマンのホテル利用実態について)
- ⑥ 講演「情報共有の大切さについて」(講師：メイプルイン幕張 取締役 松田浩氏)
- ⑦ パートナー会社の紹介(比較 .com (株)/鉄道情報システム(株))
- ⑧ 懇親会

(株) A カードホテルシステムが主催する「第 20 回 A カードトップ会」が、2015 年 2 月 17 日、野村コンファレンスプラザ日本橋(東京都中央区)にて開催された。関係者を含め計 153 人が集まり、昨年の 129 名を大幅に超えて過去最高の人数が参加した。同会では、恒例の同社が会員 55 万 4497 人を対象に行なった、ビジネスマンの出張における「ホテル利用実態」のアンケート調査の集計結果を発表した。また、14 年度の A カード年間優秀加盟ホテル・新規会員を獲得した個人の表彰式、識者による講演会なども開かれた。

本誌 臼井 英裕



第 20 回という節目を迎えた同会。宿泊業界の歴史に名を刻むべく、新たな一歩を踏み出す

会員数を日々取り込み、 相互送客の効果を高め続ける

A カードの加盟施設数は 2015 年 1 月 20 日現在、406 ホテル・53 飲食店の計 459 店舗(図表 1)。同社は 1996 年に創立してから 2008 年にホスピタリティパートナーズグループに加わった。以来、加盟施設数および会員数は右肩上がりが続き、加盟施設数は昨年と比べて 2 月時点で早くも 4 軒増加した。会員数は

55 万 4497 人で、昨年の 46 万 654 人と比べて約 9 万 4000 人と軒並み増加した。加盟ホテルの総客室数は 4 万 2296 室で、昨年比で約 600 室増加した。室数で換算すると、国内ホテル全客室数 82 万 7000 室(「衛生行政報告例」2013 年)の内、20 室に 1 室が A カードのシステムを取り入れていることになる。

会員数 55 万 4497 人の内訳は、男



例年参加人数が増す同社トップ会。今年は歴代最多の 153 人が一堂に会する



A カードのさらなる飛躍へのビジョンを語る田中章生 代表取締役



同社執行役員の内藤信也氏。出張者の宿泊トレンドを解剖する



(株)コレリアンドアトラクト代表取締役の松本慶大氏。WEB マーケティングのノウハウを惜しみなくレクチャー



ホテルサン人吉代表取締役社長の村田優子氏。自身の体験談をもとに、人と人のつながり方を話す

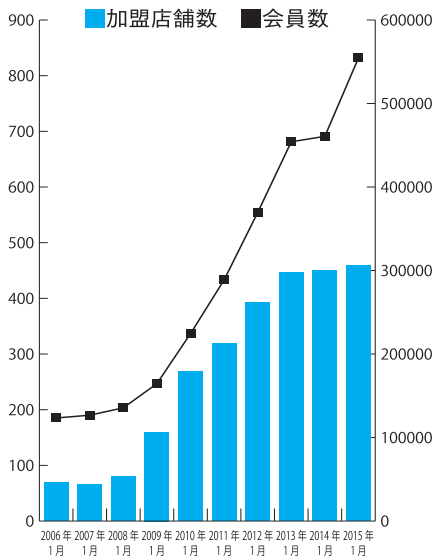


メイプルイン幕張取締役の松田浩氏。地域と密に結びついたサイト運営を通じて、その中で培った情報共有のあり方を説く

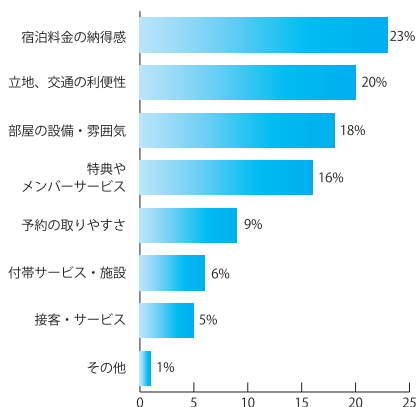


会員獲得数において、個人で年間最優秀個人賞を獲得したスマイルホテル函館の対馬涼太氏。獲得の喜びを語る

図表1 加盟店舗数および会員数の推移



図表2 同じホテルを理由したいと思う理由 (複数回答可、有効回答数7年間18938件)



宿泊料金の納得感 (有効回答数 7752 件)

順位	訴求要因	2015年1月	7年平均
1位	宿泊料金を抑えて食事代・お土産代に充てたい	49%	53%
2位	高くても良い部屋に泊まりたい	25%	21%
3位	出張規定の範囲内で、なるべく高い部屋に泊まってポイントを貯めたい	16%	17%

立地、交通の利便性 (有効回答数 14981 件)

順位	訴求要因	2015年1月	7年平均
1位	最寄りの主要駅の近さ	35%	35%
2位	目的地からの近さ	29%	28%
3位	繁華街・飲み屋外の近さ	22%	23%

部屋の設備・雰囲気 (有効回答数 19194 件)

順位	訴求要因	2015年1月	7年平均
1位	ベッドの質やサイズ	17%	18%
2位	部屋の内装の雰囲気	16%	18%
3位	部屋の広さ	15%	16%

特典やメンバーサービス (有効回答数 17690 件)

順位	訴求要因	2015年1月	7年平均
1位	キャッシュバックシステム	31%	33%
2位	インターネット旅行代理店のポイントサービス	21%	21%
3位	ホテル独自のポイントサービス	19%	19%

性 87%、女性 13%と男女比率は約 9 対 1 である。年齢層は 40 代 30%、30 代 23%、50 代 22%、60 代 12%、20 代 10%と並び、30～50 代で 7 割と大半を占める。会員の住んでいる都道府県別では多い順に東京都、北海道、神奈川県、大阪府、宮城県、愛知県、埼玉県と続き、これら 7 都道府県で全体の 4 割を占める。

昨今さらに会員数を伸ばし続けていることに関し、同社代表取締役の田中章生氏は「昨年は春と秋に入会キャンペーンを行ない、『還元率が非常に良いので頑張って貯めます』、『宿泊時に名前だけでチェックインできるのが便利です』などたくさんコメントをいただきました。会員さまは年々増加の一途をたどり、相互送客の効果がますます高まっています。今後の方針としまして、システム関連にも多く力を注ぎ、WEBシステムの安全性、利便性のさらなる向上を目指します」とコメントする。

7年間の継続調査のもと、出張者の宿泊トレンドを見出す

加盟ホテルの売り上げ向上を目的として、例年 A カード会員を対象に調査をしているビジネスマンの出張における「ホテル利用実態」では、同社執行役

員の内藤信也氏により、今年度の集計結果と 2009 年にアンケートを開始してからの 7 年間の推移が発表された。

内藤氏は「7 年間にわたる継続調査の中で、誰がどの程度頻りに泊まっているのか、宿泊にかかるお客さまの予算や実額、宿泊料金に対する価格志向、ホテルの選択理由、予約経路、予約タイミングなどトレンドが明確に見えてきました」とコメントする。

アンケート結果に関し、その中の一部「ホテルを選ぶ理由」を抜粋してみる。図表 2 より、要因として最多層は「宿泊料金の納得感」(23%)であり、以下「立地、交通の利便性」(20%)、「部屋の設備・雰囲気」(18%)、「特典やメンバーサービス」(16%)と続く。

上記の中で「立地、交通の利便性」の内訳に関し、「最寄りの主要駅の近さ」と「目的地からの近さ」が 3 割ずつ、「繁華街・飲み屋外の近さ」が 2 割を占めている。このことに関し、内藤氏は「出張ビジネスマンに訴求できる立地というのは必ずしも駅近が有利とは限らないのです。自分たちの立地を見直して、独自の強みを打ち出していくのが効果的なのです」という。

同会では、ほかにも(株)コレリアンドアトラクト代表取締役の松本慶大氏の講演「稼働率 97%、宿泊予約 24 カ月連続、平均前年比 124% UP を実現した WEB マーケティング営業ノウハウ」、ホテルサン人吉代表取締役社長の村田優子氏の講演「人を豊かにするホテル経営」、メイプルイン幕張取締役の松田浩氏の講演「情報共有の大切さについて」らが開かれ、参加者の注目を多く集めた。

【「ホテル利用実態」アンケート調査概要】
 調査機関：(株) A カードホテルシステム
 実施期間：2009 年から毎年 1 月に実施
 調査方法：A カード会員へのインターネットアンケート
 有効回答者数 (7 年間合計延べ人数)：8,591 人(A カード全会員の約 0.3%)
 出張する会員の割合：9 割
 性別：男性 9 割、女性 1 割
 職業：会社員 7 割 (会社員・公務員・自営業の合計で 9 割)
 年齢層：30 代～50 代が 8 割
 アンケート調査結果は、下記の URL で公表
<http://www.acard.jp/info.php>